



令和元年11月号



台風第19号

10月12日から13日にかけて、台風第19号が関東地方から東北地方を進み、各地で大雨による河川の氾濫、土砂崩れ、突風による被害など甚大な被害をもたらしました。

日立市での観測結果を詳しく見ていくと、12日23時31分に97.2・3ヘクトパスカルの最低気圧を市役所で観測しており、そのころに台風が中心が最も近づいたとみられます。

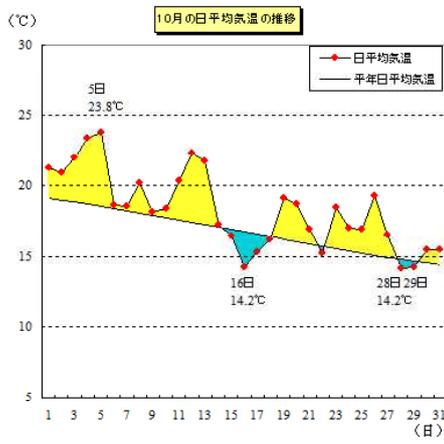
雨は、11日から、弱い雨が降りはじめ、12日昼過ぎから発達した雨雲がかかるようになりました。市役所などの市内の海沿いの地域では、時間10ミリ前後の雨が日付が変わる頃まで続き、市役所での総降水量は122.0ミリとなりました。一方、西部支所や本山などの山沿いの観測所では、1時

間に30ミリ前後の雨が続き、西部支所では247.5ミリと市役所の倍の降水量でした。なお、西部支所の12日の降水量は239ミリでこれは、西部支所で観測をはじめから最も多い記録となりました。この雨のため、浸水や土砂災害の可能性がかなり高まったため、日立市にも「大雨特別警報」が発表されました。24時間の降水量で北茨城市の花園（457ミリ）や、大子（270ミリ）では観測史上最も多い量となり、河川も増水しました。久慈川では常陸大宮市などで堤防の決壊などによる氾濫も発生しました。久慈川にかかる国道6号の榊橋付近の水位は、13日6時40分に7.46メートルを記録しました。氾濫の危険性が高まる氾濫危険水位を70センチも越え、堤防設計上の最高水位である7.54メートルに迫り、日立市内でも、いくつか堤防が決壊してもおかしくない状態となりました。十王川についても、伊師本郷の観測点で、氾濫危険水位を超える水位を観測しています。

※天気相談所のあゆみは今号はお休みします。

10月の気候

10月は、台風や低気圧の影響で、雨が降る日が多く、月合計の降水量は332.5ミリと、平年の2倍近く、10月としては過去5番目に多くなりました。平均気温も18.3度と、平年よりかなり高く、冷え込む日が少ないため、最低気温は15.4度と、10月としては過去2番目に高い記録となりました。日照時間は141.1時間と平年より少なくなりました。



1カ月予報 (気象庁発表)

11月は、平年と同様に晴れの日が多い予想です。はじめ気温は高めですが、平年並と変わっていく見込みです。降水量は「ほぼ平年並み」で日照時間も「ほぼ平年並み」の予想です。

天気用語の基礎知識

気温の言葉4

最高気温が35℃を超えた日を「猛暑日」といいます。2007年に制定された比較的新しい用語です。市役所における猛暑日は、年に1回あるかどうかの現象ですが、最も多い年は5日（2002年）でこの年は8月8日から12日にかけて5日連続で観測しました。最も早い記録は7月1日（2000年）と2001年、最も遅い記録は、9月7日（2010年）となっています。

神峰の山から

台風第19号のあと、台風20号、21号、低気圧と立て続けにやってきました。10月25日の低気圧は、短い時間でしたが、非常に強い雨が降り、十王交流センターや北部消防署では、1時間に60ミリを超える降水量を観測し、水が流れきれずに、浸水してしまったり、土砂崩れなども発生しました。10月は台風による2日にわたる大雨と低気圧による半日程度の短い期間での大雨と、2種類の大雨が発生したことになります。起きる被害にも違いがあり、今後の教訓にしていきたいです。

自分の生活しているところに潜む危険性を知っていることは、命を守る上で、とても重要です。